

企業が持つデータの品質を確保するリポジトリツール

metanoah 2.0

マスタデータが乱立し、どのマスタが正しいか判断できない



アプリケーション間のマスタ連携に時間がかかり、データの鮮度が落ちる



アプリケーションのアウトプットが不一致で、原因究明に時間がかかる



基幹系と情報系のマスタデータがずれていて、意思決定に支障が・・・



企業を支える情報システムには
その基盤となる **メタデータの貯蔵庫 (リポジトリ)** が必要です！

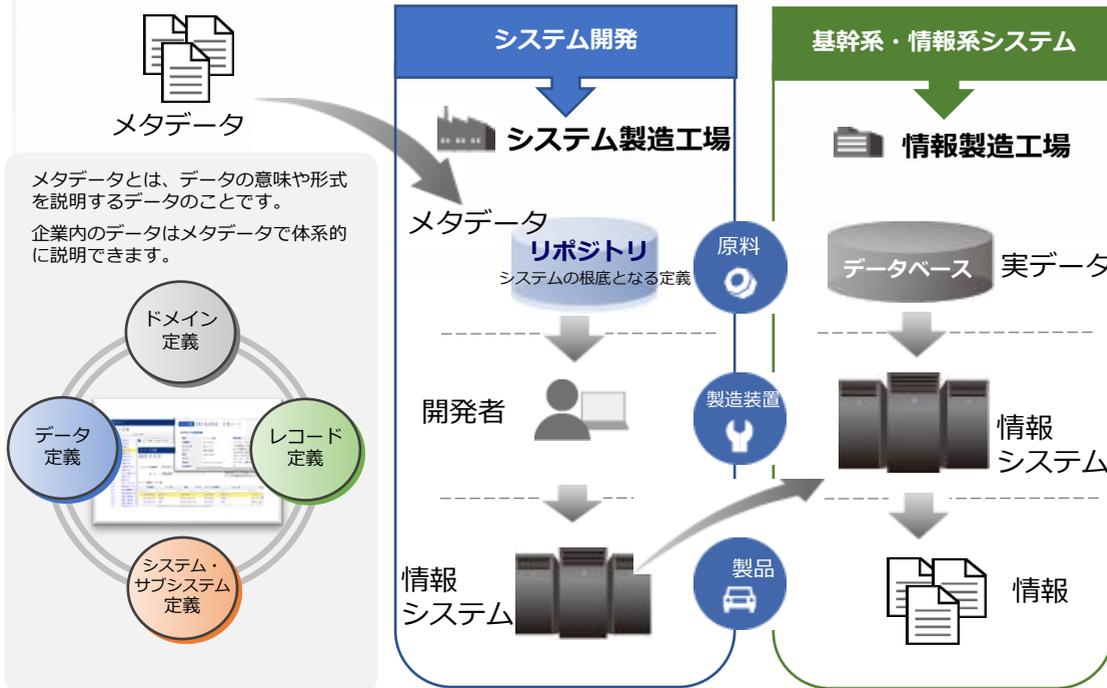
【リポジトリ】
メタデータの貯蔵庫



【メタデータ】
データの意味や形式を
体系化したデータ

「メタデータ」と「リポジトリ」で正確なデータのあり方を管理できます！

Metanoahの概要



情報システム構築工程を工場に例えると、メタデータを格納したリポジトリは「原料の貯蔵庫」に相当します。Metanoahは、データが間違っていたり重複している、定義や意味、使い方が社内でバラバラ、ルールが不完全で想定外のデータが発生する、というような状況を回避するために、企業内のどこにどんなデータが存在しているかを明らかにし、その意味や形式、データ間の関連など、正確な「データのあり方」を管理することが可能です。

メタデータによってデータの意味や形式を定義し、Metanoah 2.0で一元管理することにより

情報資源の見える化

と

システム開発・
保守の生産性向上

を実現します！

導入のメリット

メタデータによって、データの意味や形式を定義して「metanoah」で一元管理することにより、以下のようなことが可能になります。

メタデータ定義の一元管理・体系的管理

メタデータ定義の閲覧、追加、修正

**テーブル生成ツール
・データ設計ツール
への連携
(開発検討中)**

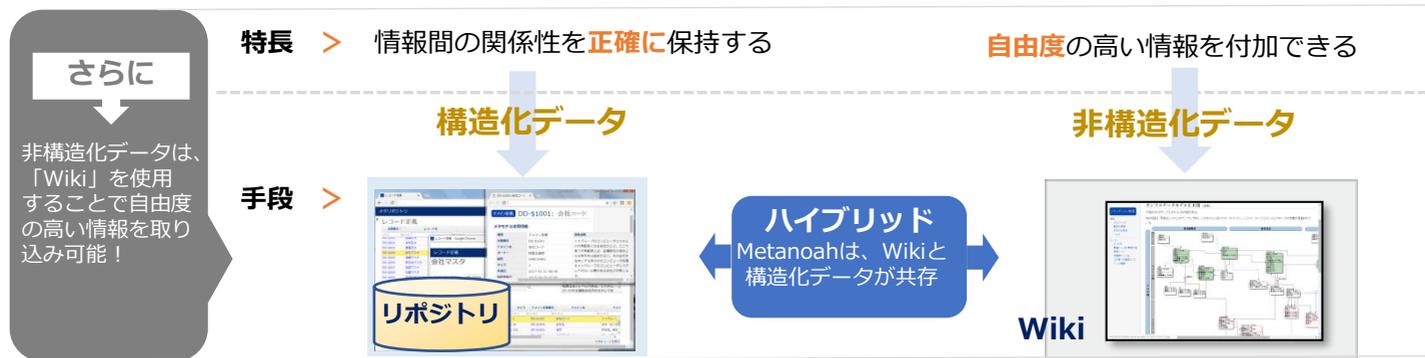
**メタデータ間のク
ロスリファレンス
の出力
(開発検討中)**

資産の見える化（長期的な効果）

- ・自社の情報資源の永続的管理が可能になる
- ・システム構成要素の形式知化（ホワイトボックス化）が可能になる

システム開発・保守の生産性向上（短期的な効果）

- ・正しいデータの仕様を、同時に複数の開発ベンダーにシェアできる
- ・システム機能追加の際、既存データとの重複チェックが可能になる
- ・MDM（Master Data Management）構築に際しての必須基盤になる



導入の流れ

<ステップ1>
・スコープ決定
（対象業務）
・作業計画立案

<ステップ2>
・データモデル作成

<ステップ3>
・メタデータ定義
・Metanoah導入
・定義データ登録

<ステップ4>
・運用ルール策定

動作環境

【クライアント要件】

OS	Windows 10
CPU, RAM	上記OSの安定稼働が可能となるもの
ブラウザ	Google Chrome 57以上
画面解像度	1024×768以上

【サーバー要件】

OS	CentOS 7x(64bit), Red Hat Enterprise Linux 7x(64bit)
ミドルウェア	PHP 7.2, PostgreSQL 13.5
CPU	上記OSの安定稼働が可能となるもの（2×2GHz 64bit Intel Xe または同程度）
RAM	2GB以上
ディスク容量	8GB以上（登録データ数、Wikiページ数、添付ファイル容量に依存するための個別見積りが必要）
ネットワーク	10Mbps以上

【クラウドサービス】

対応クラウド	Amazon EC2
インスタンス	T2 small以上
OS	Amazon Linux

【本社】
〒108-0075 東京都港区港南4丁目1番8号 リバーージュ品川5F
TEL:03-5783-2811 / FAX:03-5783-2813

【中部オフィス】
〒450-0002 愛知県名古屋市中村区中駅4-23-13 名古屋大同生命ビル4階
TEL:052-587-7681 / FAX:052-587-7683

【お問い合わせ】
株式会社アイ・ティ・イノベーション
営業部
email: info@it-innovation.co.jp
TEL:03-5783-2811

